

道徳授業地区公開講座を実施しました

先日はお忙しい中、道徳授業地区公開講座の講演会にご参加いただきありがとうございました。3校時には各クラスで道徳の授業を行いました。授業をご参観頂けなかったので、様子をお伝えします。ご家庭で話題にして頂けたら、お子さんの心に更に響いていくと思います。授業の内容やねらいは裏面にありますので、ご参照の上、ぜひ話題にしてみてください。

1 年	<p>「あしたはえんそく」という教材で授業を行いました。好きか嫌いかで態度を変えるのはどうしてよくないのかについて考えました。</p> <p>ワークシートには「相手が嫌な気持ちになってしまうから。」「好き嫌いしないほうが、自分も相手も気持ちよく過ごせるから。」などの理由が挙がり、話し合いを通して友達と仲良くすることの大切さについて考えを深めることができました。</p>	
2 年	<p>「およげないりすさん」という教材で、友達とだれとでも仲良く過ごすことについて学習しました。子ども達はみな自分の考えをワークシートに書き、意見を発表しました。場面を想像しながら意見を交流することで、「やっぱり、みんなで過ごした方が楽しい。」「仲間外れをしない。」など、誰にでも公平に接しようとする大切さについて考えることができました。</p>	
3 年	<p>「水やり係」という教材で、自分の気持ちを伝える際、意識すべきことを考えました。これから自分の考えを伝えるときには、相手の気持ちや立場を考えたり、初めから悪いと決めつけずに理由を聞いたりすることが大切ではないかと意見がまとまりました。</p> <p>改めて、自分も相手も気持ちの良いコミュニケーションを目指すべきだと気付きました。</p>	

4校時の講演会では、「持続可能な社会を創る」をテーマに行われました。講師として、日本ユニセフ協会 学校事業部部長 全国小学校道徳教育研究会顧問の金子雅彦先生に講演していただきました。前半は、一昨年度教科化された「特別の教科道徳」の授業内容や教科化のねらいについてのお話でした。学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する時間が道徳科の授業であることを分かりやすく説明していただきました。後半は、ユニセフの活動と関連して、コロナ禍における世界の子どもたちの現状や貧困の問題に直面している子どもたちの現状を動画や写真を見ながら紹介していただきました。そして、締めくくりとして、SDGsのキーワードである「誰一人残さない」を実現するために、また、世界の子どもたちのために、世界がSDGsの17の目標を共通の目標として、着実に実践していくことが重要であるというお話をしていただきました。※ユニセフのSDGsのwebサイト「SDGs CLUB」で、SDGsの17の目標と169のターゲットを分かりやすく紹介されております。<http://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

4年

「ひとりぼっちのＹちゃん」という教材で授業を行いました。何となく気に入らない、そんな小さな気持ちから始まった意地悪が、気付けばクラス全体に広まってしまう怖さ。そんな中でも自分の悪いところを直して仲良くしてほしいと思いを伝えるＹちゃん。意図せずいじめになってしまう怖さに気付くにつ、自分だったら実際はどうかに触れ、改めて誰に対しても公平に接することの大切さに気付くことができました。



5年

「小さな国際親善大使」という教材で授業を行いました。中国やアメリカの国の文化や習慣について紹介すると、「知らなかった。日本とは違う。」「なぜそんな習慣があるのだろう。」などの感想が挙がりました。国際理解において、大切なことを考えました。相手の国の文化や習慣を知ろうと努力をする、否定や差別をしない、受け止めて理解するなどの意見が出ました。また、まずは自分の身近にいる友達のことを、理解したり受け止めたりすることから始めていきたいという考えも出て、日頃の行いや考え方は国際理解にも通ずると気付くことが出来ました。



6年

「私には夢がある」という教材をもとに授業を行いました。差別のない社会を求めて、尽力したマーティン＝ルーサー＝キング＝ジュニアの思いを学習しました。マーティンが目指す世界を実現するためには、私たち一人一人がどのような思いをもつべきかを考えました。「いじめのない生活にしたい。」など黒人差別の問題を通して、身近な問題を考え、解決していこうとするきっかけとなりました。

